始

5927

國民教育論

蘇峰 德富猪一郎述

東京 國民新聞社 發行

露光量違いの為重複撮影

290-16

財團法人國民教育奬勵會
今般其會事業ノ狀況ヲ
被聞食御補助ノ
思召ヲ以テ金參千圓
下賜候事
大正十一年十二月二十五日
宮内省

國民教育奬勵會が約三ヶ年間營々孜々其目的に向つて努力し其業蹟の比較的顯著なること天聽に達し大正十一年十二月本會事業費御補助の思召を以つて特に上掲御沙汰書の如く金三千圓也を下賜せられ本會關係者並に一般教育者を感泣せしめたり

とみのほとくはゝるまゝに國民を　まなひの道にすゝめてしかな

國民教育奬勵會創立の計畫天聽に達したる大正八年十一月時の波多野宮内大臣を經て國民新聞社に右の御製御眞筆の拜寫を差許され國民新聞社は之れを寫眞石版に附して一般に頒布し其の聖旨を感佩しまつれり

蘇峰　德富猪一郎述

國民教育論

東京　國民新聞社　發行

大正
12　1
内交

露光量違いの為重複撮影

270-16

國民教育論

蘇峰 德富猪一郎述

東京 國民新聞社 發行

大正
12. 2. 1
交内

財團法人國民教育奬勵會
今般其會事業ノ狀況ヲ
被聞食御補助ノ
思召ヲ以テ金參千圓
下賜候事
大正十一年十二月二十五日
宮内省

國民教育奬勵會が約三ヶ年間營々孜々其目的に向つて努力し其業績の比較的顯著なること天聽に達し大正十一年十二月本會事業費御補助の思召を以つて特に上掲御沙汰書の如く金三千圓也を下賜せられ本會關係者並に一般教育者を感泣せしめたり

とみのほとくはゝるまゝに國民を
まなひの道にすゝめてしかな

國民教育奬勵會創立の計畫天聽に達したる大正八年十一月時の波多野宮内大臣を繼て國民新聞社に右の御製御眞筆の寫を送附され國民新聞社は之れを寫眞石版に附して一般に頒布し其の旨趣を感佩しまつれり

國民教育奬勵會御下賜金に就て

全國小學校の諸先生に告ぐ

蘇峰生

大正十一年十二月二十五日、我が國民教育奬勵會に、忝くも御手許金三千圓を賜うた。此れは國民教育奬勵會が、其の創立―大正八年十月―日尚ほ淺きに拘らず、其の國民教育に貢献したる所、頗る昭著なるが爲めに、然りしものと恐察し參らす。三千圓の金額は、奬勵會の資金約三十萬圓に比すれば、其の百分一に該當す。乃ち百分一に止るも、然も、聖恩の鴻大なるは、單に此數字を以て評値す可きものでない。

吾人は之を以て、獨り國民教育奬勵會其者に對する、恩賜と認めずして、全國の國民教育に從事せらるゝ小學校先生諸君各位に對する、難有き思召の一端として、之を諸君各位と與に拜受し、諸君各位と與に、聖旨を對揚せんことを期する。

二

國民教育の前途に就ては、專門の大家、何れも其の學識と經驗とによりて、それ〳〵方針を示導してゐる。固より教育に直接關係なき吾人の饒舌を容さぬ。併しながら國民教育は、教育專門家のみの仕事ではない、國民てふ名の示す如く、實に國民總體の肩にかゝる義務である。國民の一個として記者の如きも、恒に關心してゐる。特に即今日本帝國の現狀に就ては、猶更ら此事に關心せざるを得ぬ次第がある。關心の要點は、手短かに云へば、思想問題だ、我が帝國は、世界大戰に際して、賴ひに其の戰場たるを免かれた。されば物質的の損害は、佛蘭西や、白耳義とは同日の論

でない。然も精神的に於ては、多大に其影響を受けた。或者は之を利益と云ひ、或者は之を損害と云ふ。何にしても、此世界大戰は、日本に於ける思想界を一掃し去つた。

三

現今の日本は、宛も大暴風の後の如く、大洪水の後の如く、大津浪の後の如く、大地震の後の如く、大火災の後の如く、何が何やら殆んど渾々、沌々、紛々、雜々の狀態だ。大戰以前に高調せられたる日本第一主義、帝國主義、忠孝主義、國家主義の如きは、所謂る軍國主義や、官僚主義と與に、或はそれ等の名の下に、殆んど破壞せられ去つた。今日の日本には、舊主義の死骸は、累々として隨處に橫はつてゐる。而して未だ其の墓石さへも、建てゝ吳れる者はない。然も所謂る新思想なるものは、果して焉くにある。日本は思想上の舊衣を剝いだ、若しくは外部の事情の爲めに剝ぎ去られ

た。然かも其の新衣裳なるものは、焉くにある。若し現狀を率直に語らん乎、日本國民の總てとは云はぬが、其の大部分は、思想の破產者だ。然らざれば無我夢中の醉生夢死者だ。斯る時代に於て、國民敎育の任務を、直切に擔ふ敎育家諸君の當惑以て知る可し。吾人は諸君各位に向つて、實に深厚の同情を禁じ得ぬ。

四

善とか惡とかは、其の現存する物に就ての鑑別だ。苟も無一物に於ては、何とも鑑別の仕樣があるまい。人或は日本國民の思想が、惡化したと云ふが、惡化にもせよ、眞に主持する思想があれば、まだしもの事であるが、今日は果して其物ある乎。固より之を部分的に見れば、惡化もあらう、善化もあらう。されど概言すれば、現狀は國民思想の正邪、善惡、醜美、良否の問題でなく、有無の問題だ。吾人の所見にして大過なからしめば、見渡す限り空々、寂々のみ。古人は無一物中無盡藏と云うたが、日本帝國の思想界は、無一物中無一物と云ふが、恐らくは適當であらう。

五

有體に云へば、日本國民は舊思想に饜いた。否な食傷した。乃ち舊思想に中られて、懲り〳〵した。彼等が金科玉條としたる舊思想は、殆んど悉く裏切られざるは無つた。忠君愛國は、上下を一貫したる、日本國民共通の信條であつた。今も尙ほ信條でなからねばならぬ、然も國民の多數が、眞面目に忠君愛國を考へ、國民敎育の先生達が、忠君愛國の敎育を施しつゝある最中、少數の支配者階級は、忠君愛國の名によつて、種々の偏私を行ひ、種々の惡事、醜事、汚事、腐事を行うてゐた。それが隱匿せらる間は兎も角も、諺に所謂る隱れたるより現はれたるはなくで、最近數年間、時々刻々暴露せられ、暴露せられつゝある。此に於てか忠君愛國の假面を被る者を惡むと與に、併せてその忠君愛國の信條さへも、惡むと云はざる迄も、之を面白からぬ看板と

厭ふに至つた。即ち忠君愛國は、强盜の看板でなければ、詐僞師の引札と見做し、併せて忠君愛國其物をも唾棄するに至つた。

世間では小學敎師の不品行とか、不都合とか、種々の難癖を附くる者がある、然も此れは或る支配者階級に比すれば、九牛の一毛だ。彼等はほんの支配者階級腐敗の飛沫を浴びたに過ぎぬ、世間が政治家や、實業家や、軍人や、其他は寛假して、敎育家ばかりを責むるは、決して公平とは云はれない。

六

社會は一の大なる學校だ。學校は社會てふ大なる學校の中にある敎室だ。然るに今日の社會は、學校としては餘りに亂暴で、餘りに腐敗してゐる。固より社會の總てとは云はぬが、兎にも角にも社會の支配者階級の狀態は、何人に診斷せしめても、決して健全と云ふことは能はぬ。如何に學校のみにて清潔法を行ふも、環境の社會が傳染病者のみであれば、其の清潔法は、全く無用ならざるも、殆んどそれに近いと云はねばならぬ。今日は學校で敎へた事を、社會で取消す事となつてゐる。此れでは敎育の効能の稀薄も致方がない。

何れの國にても、支配者階級は、概して腐敗し、且つ腐敗し易きものである。然も世界廣しと雖も、我が日本の支配者階級の如く、權利を行使するに敏にして、義務を實踐するに懶きものはあるまい。彼等の中にも固より除外例はある、其の除外例の若干は、本文の記者が親しく之を證明し能ふ。然も概して言へば、我が支配者階級は、其の階級的特權、若しくは特權らしきものを惡用して、十二分に其の私慾を逞うし、其の私腹を肥さんとしつゝ、然も却て其の位地に伴ふ當然の義務を閑却して、之を顧みざらんとする者が多い。斯る鼻持ならぬ忠君愛國者を見ては、併せて忠君愛國に冷淡となるも、無理からぬ譯ではあるまい乎。

吾人は決して自國を忌厭して、外國に心醉する者ではない。併し外國の事でも善は善、長は長、自國の事でも惡は惡、短は短だ。敢て悉くと云ふではないが、英國の支配者階級は、支配者階級としての義務の勵行には、最も熱心の一らしく思はるゝ節が多い。世界大戰に際して、彼等が献身的に國家に奉仕したる事實は、何人も之を否定し能はぬ。其の戰死者の中には、眞に英國の花と云ふ可き、貴族、富豪、知識階級、門閥者流の子弟が多かつた。而して其の老人、婦女子等が、何れも其力を盡し、其躬を致したる事實は、枚擧するには、餘りに多き程だ、戰時中米國の大使として、倫敦に駐劄したるページ氏が、當時の大統領ウイルソン氏に與へたる書簡の、頃ろ公にせられたるものを見るに。彼は英國の上流社會の、氣品高くして公德に富む、好紳士であるに傾倒し。其の國民が鷹揚大度にして、如何なる極所窮境に陷りても、泰然自若

たる風格を有するを欽羨し。斯る國民を稱して、墮落したる國民と云ふは、全くの誣妄である、彼等の運命は前途悠久だ。予は御身と共に彼等の中より出で來りたるを、誇りとすと云うてゐる。蓋し大使も大統領も、何れも其の祖先は、英國より移住したるものであるからだ。識者はページ氏の讃評が、或は聊か割引を要すると思ふであらう。假りに割引しても、戰時中に於ける英人の面目は、躍如として其の文字の上に出でゝゐる。

本文の記者は、日本帝國に於て、存亡の大機と云ふ可き日露戰爭の際には、聊か政界の裡面を知り得可き境遇と、機會とに接した。而して記者の知り得たる限りに於て、我が帝國の支配者階級の所作と、ページ氏の所記とを對照すれば、眞に忸怩たらざるを得ざるものがあるを遺憾とする。

世上の識者は、動もすれば我國の今日、社會協調思想の缺乏して、徒らに階級憎惡の念熾盛なるを嘆惜するものゝ如し。吾人も同感だ。併し飜て其の原因を吟味すれば、無理からぬ事と思ふ。何人が斯る階級的憎惡の念を、煽揚したる乎。其の責任者は誰ぞ。極めて平らたく云へば、是れは畢竟支配者階級が、自から作せる災と云はねばなるまい。彼等が世の中を我物顔に振舞ふ結果が、乃ち彼等をして天下の怨府たらしむる所以であらう。所有者が無所有者から美望せらるゝは、必然の事だ。されば所有者は、宜しく無所有者の羨望心を、挑發せざる可く、其の所有の一切と云はざるも、其の一半を、天下と與にするの了見がなからねばならぬ。然るに天下の富と貴とを、唯だ一部の階級、一部の團體のみにて、私せんとするに於て、階級交鬪の氣運を刺戟するは、當然と云はんよりも、必然の事だ。此れが日本に於ける階級的憎惡や、軋轢の出來したる原因だ。唯一と云はざるも、最大原因に相違あるまい。

九

記者は必らずしも先見の明を誇らんとする者ではない。されど大正三年世界大戰の破裂以來、幾回か此事に就て論じた。記者が成金風の流行を誡め、成金者の謙抑、自制を警告したるは、一再ではなかつた。普通選擧論の如きは、大正御代の起頭から絶叫した。然も當時に於ては、斯る意見は殆んど省る者は無つた。然も今日の不景氣と、今日の社會的呪詛とは、全く此の期間に於ける放漫、蕩逸なる成金景氣の中に、胚胎し來りたるものなるとを、誰れか敢て否定し得る者ぞ。善化乎、惡化乎は、人々の見解次第として、我が國民的氣風の、最近七八年間に於て、非常に變化したる一事は、如何なる呑氣漢にても、之を看取せざる譯には參らぬ。而して我が國民が、所謂る國民的信條を失墜したる所以も、別儀ではない。即ち外から迫れる刺戟と、內から迎へる刺戟とが、相ひ化合して、固有の思想を蕩搖し去つたものだ。外の刺戟ば、階級蕩

除の思想だ、内の刺戟は、支配者階級壟斷の私だ。

十

世の所謂る識者中には世界大戰の効果に就て、半ば幻滅を感じつゝある樣だ。彼等は今次の戰爭は、畢竟戰爭退治の戰爭である。即ち戰爭を未來永劫戰むる爲めの戰爭だ。軍國主義撲滅の戰爭だ。文化的平和主義扶植の戰爭だ。世界大戰の終局と與に、世界の平和は永遠に保障せらるゝであらう。力の福音は廢せられて、正義の福音は行はるであらう。世界は全く一大共和國となりて、善美なる國際政治が行はるゝであらうと、期待してゐた。斯る見識——若しくは、不見識——もて世界大戰を始終し、巴里の會議に乘り込んだ連中が、餘りに其事の意外から意外に推移するを見て、茫然自失したのも無理はない。

彼等は自個の不見識には氣付かずして、之を以て、世の中の反動の趨勢と見做し、強

ひて說を作してゐる。曰く、平和の世の中に、軍國主義の舊臭味を持ち出し、世界的思想の眞中に、國民思想を高調す、是れ亦た運動の原則に免れ難き、反動の現像のみ、以て久しきを持す可らず、以て長きに耐ふ可らず。何れ近き中には、我等の理想世界が、出現するに相違なかる可しと。此れはせめてもの彼等が自欺、自慰的の文句だ。

十一

併し記者は決して斯く認めてゐない。此れは反動でも何でもない、當り前の成行だ。元來彼等の世界大戰に關する見解が、根本的に間違つてゐる。記者は當初から此の戰爭を、正邪善惡の戰爭とは認めてゐない。文明と野蠻との戰爭とも認めてゐない。平和主義と軍國主義との戰爭とも認めてゐない。即ち何れの方面からも、決して之を義戰と認めてゐない。要するに此れは獨逸的帝國主義と、アングロ・サキソン的帝國主義との衝突だ。約して言へば、英國と獨逸との爭覇戰だ。何れが勝つたとて、世界の文

明には、別段の大差はない。されば吾人は當初より此の戰爭の結果には、餘りに多くの希望を屬してゐなかつた。否な寧ろ大なる鬼胎を懷いてゐた。何れが勝つても、自餘の諸國は迷惑するに相違ない。若し仕合せに双方五分々々にて引き分けとならば、自餘の諸國も、幾許か息を噓くことが出來るであらう。左なくば戰後は何れもみじめなものであらうと、思うてゐた。然るに米國が午前十一時半と云ふ潮合を料りて、此の戰爭に飛び込んだ結果、兎も角もアングロ・サキソン側の勝利となつた。勝利と同時に、戰爭中の宣傳は、實際に於て、一切之を取消して仕舞うた。今日の幻滅者は、此の宣傳に催眠術を施されて、稍々其の眠から覺めた連中だ。

十二

實を云へば勝つた英國も、負けた獨逸も、其の疲勞の程度に、若干の差別あるのみにて、何れも疲勞してゐる。英國のウェリントン公が、戰敗者に次で、戰爭の苦を喫する者は、戰勝者であると云うた警句は、其の意味の解し樣如何によりては、恰も現狀に當て嵌る。斯る場合に獨り多くの疲勞を感ぜざるは、米國のみだ。然も米國とても獨角力を取る譯にはゆかず、商賣相手が無ければ、貿易の利を專らにする事も出來ぬ。まして貸した金の停滯したるのみにても、其の活動の不自由を感ずるは勿論だ。況んや米國自身も、比較的短時ではあつたとは云へ、餘りに力瘤を出し過ぎて、聊か力負けの累なしとせぬ。此れが正さしく世界列强の現狀だ。

十三

所謂る龍疲虎困の今日に於ては、盛んに軍國主義を行はんとするも、行ふの餘力がない。さりとて盛んに平和主義を行はんとするも、又た行ふの餘力がない。徹底せる平和も、徹底せる戰爭も、實力なくては叶はぬ事だ。要するに當分の間は、即ち其の元氣を恢復する迄は、兎や角一時を糊塗して、お茶を濁すに過ぎぬであらう。此れが所

謂る華盛頓會議であり、又た其の結果である。而して元氣恢復の後は、如何なる趨勢である可き乎。それを今から豫言するには、餘りに大膽だ。然も列强が戰爭に懲り懲りした經驗は、今後數年の後には、直ちに忘却す可きでない。されば列强何れも戰爭せずして勝つ功夫に、專らなるであらう。別言すれば、戰爭的平和の代りに、平和的戰爭に、其の國力を傾け來るであらう。今日に於ける國際聯盟の如きも、その目的には、若干の便宜を與へるものとして、之を認め置かねばなるまい。即ち一時的小康を保つ機關としては。

十四

世界大戰の副產物と云ふ可き乎、寧ろ主要產物と云ふ可き乎。此の戰爭を機會として、(第一)婦人の勢力增加し、(第二)勞働者の勢力增加し、(第三)歐洲に於ける小弱民族の勢力識認せられ、(第四)東亞に於ける有色民族擡首し、(第五)回教徒の勢力勃興し。而して(第六)は所謂る赤化運動なるもの、露國を本部として、世界に波及せんとしつつある。

此れは全く何れの交戰國の帝王、大統領、首相、大臣、議會、あらゆる智者、賢者の思ひ及ばざる現象であつた。吾人は決してレニンや、ガンヂーや、ウイレラや、ケマル・パシヤは、其他を同一型の人物と云ふでない。彼等の立場は銘々異つてゐる。彼等を一室の中に集めなば、乍ち喧嘩を打ち始むるであらう。されど所謂る弱者と稱する者が、强者と稱する階級に對する反抗運動は、此の世界大戰を新紀元として出で來つた。而して其の運動は、今や或る點迄成功し、且つ將來に向て成功しつゝある。此れは單に餘所事ではない、日本に於て注意せねばならぬ大問題だ。戰爭にてあぶく金を摘みたる連中が、平和となりて、之を失うた始末は、其の同臭味の所謂る政治家なる者に之をつけしめて可なりだ。然も此の所謂る弱者階級の、所謂る强者階級に對する反抗運動の前途に就ては、國家存亡の一大機、此に在りと云ふも過言であるまい。吾

人は恐れながら民の父母にて在す、我が皇室が、此事に就て、宸念あらんとを祈り奉る。而して今回國民教育奬勵會に對する御下賜金の如きも、或はその思召の一端ではあるまい乎と、恐れながら忖度し奉らざるを得ぬ。

十五

世界戰爭に若し恩惠ありとせば、そは軍人のサーベルに代ふるに、金持の算盤を以てしたのではない。所謂る世界の弱者階級、無勢力者、無所有者階級、世界に於て繼子扱ひせられたる階級の、勃興だ、擡首だ、運動だ。而して或る程度迄は成功だ。我國に於ては、支配者階級の、餘りに傍若無人なる爲め、餘りに無理解なる爲め、餘りに時代錯誤の爲めに、少からざる反抗思想を挑發して來た。此れは今尙ほ伏流なれば、その勢力に氣付く者も多くない。多くないが、實際は恐る可き傾向だ。今後日本帝國の大問題は、如何にして此の傾向を善導する乎である。反抗は力だ。それたゞ力だ、

故に之を善用すれば善力となり、惡用すれば惡力となる。然も其の勢已に成りたる後に於ては、如何なる英雄、豪傑出で來るも、之を如何ともするとは能はぬ。而して所謂る善導する所以は、必らずしも小細工を要せぬ。唯だ此の勢力をして、其の伸所を得せしむるにあるのだ。即ちその勢の赴く所に隨うて、之を疏通するにあるのだ。普通選擧の如きは、其の一方便だ。國民が普通選擧を要望する間は、爲政者に取りて、洵とに仕合だ。只だ速かに之を與へよ。一刻も速かに之を與へよ。若し此の機會を空過せん乎、次ぎには普通選擧不必要の運動が起るであらう。國民が普通選擧を欲せざる時節に際して、强ひて之を與へんとするも、既に晩い。

十六

世間の識者は、頻りに日本國民が島國根性に囚はれて、國際的思想の乏しきを慨し、今後は勗めて國際協調の敎養あらしめよと云ふ。如何にも尤の意見だ吾人は國際的と

云はず、人類的と云ひ度いのだ。國際協調の敎養は、世界相手の現代に於て、最も必要だ。併し國際協調なるものは、我が本領ありての後だ。苟も我に本領なく空々、寂々ならば、國際協調とは所謂る猿の人眞似でなければ、他人の尻馬に乘る雷同者に外ならぬ。一言すれば所謂る彌次馬だ。堂々たる日本國民を擧げて、世界的彌次馬となすは、遺憾千萬ではあるまい乎。

甚だ申し惡い次第ではあるが、最近十年間、日本には殆んど自主的外交はない。何れも英米の尻馬乘のみである。大正三年八月世界大戰の破裂以來、ヴェルサイユ會議、華盛頓會議、何れも其の通りだ。若し此れが國際協調ならば、此れより容易の事はあるまい。只だ己れを沒却さへすれば、それで濟む。

何事も比較的だ、何れの條約でも、會議でも、逐條逐一、悉く皆な不可と云ふ可き筈はない。但だ大概に就て云へば、日本は善にせよ惡にせよ、英米の後塵を拜することが、日本外交の本分であるかの如く、心得てゐる樣だ。而して爲政者共が、彼等ばかりの自己沒却でなく、國民を擧げて自己沒却させんとするに至つては、餘りに情けなき次第ではあるまい乎。

記者の信ずる國際協調とは、自個には自個相應の意見があつて、それを世界の大舞臺に持ち出し。折衝を累ねて、其の行はねばならぬ理想をば、實際に行ひ得可き程度に支持する事だ。

何も理窟は相手方にのみ存すると心得、相手方の申分にのみ感心し、自個の立脚地を沒却して、始めて國際協調の美を濟すと云ふ可きではあるまい。

十七

日本國民性の弱點は、果して國際協調心が缺乏するにある乎、將た自主的本領の存在せざるにある乎。そは隨分異論のある問題であらう。兎に角歷史的事實から歸納すれば、双方共に日本國民の短所らしく思はるゝ。特に附和雷同僻、强者盲從僻、長き物

に捲るゝ僻、模倣心酔僻の如きは、日本の歴史それ自身が、その鐵案だ。日本人は今日の英米人のみに、催眠術を施されてゐない。古は支那人からも同樣であつた。日本人は自國あるを知つて、他國あるを知らぬと云ふが、記者の歴史眼では、日本人は他國あるを知りて、自國あるを知らぬ者も、皆無ではなかつた。特に有識階級に、此の被催眠者の多きは、古尙ほ今の如く、今尙ほ古の如しと思ふ。他の比較は兎も角も、少くとも支那人や、英人に比すれば、日本國民には、國民的矜重心を缺いてゐる樣だ。或は國民的自重心が、缺乏してゐる樣だ。

併し日本人が、英人や支那人に比して、自重心が少いと云ふも、多いと云ふも、そは議論の要點ではない、要點は今後の國民敎育に就て、單に國際協調心のみを敎へて、國民的自主心を閑却するに於ては、佛を作りて魂を入ぬも同樣ではあるまい乎。記者の杞憂は此の一點である。

十八

今日に於て國家を詛ふ者は、日本のみに限らぬ。何れの國にも自から國家から虐げられた乎、或は國家の名によりて、無理沒道の待遇を受けた乎、左なくば間接にさる場合に接觸した乎。何れにせよ種々の理由から國家を詛ふ者は、何れの國にもある。特に世界大戰は、積雪が一時に融けて、野草が一齊に芽を吹いた如く、斯る不平者が何れも鎌首を揚げて來た。

但だ日本人には、他人の笛に乘りて乍ち躍り出す僻がある。世界のあらゆる夢想者や、不平漢は云ふ迄もなく。英米の變人奇物抔が、眞面目腐りて吐く熱や、又は例の横著者共が、其の宣傳の方便として、自由とか、博愛とか、平和とか、同胞とか、字引にありとあらゆる文字を並べ來るを、眞面目に受取りて、直ちに國家を超越したる世界的公民の心持となりて、獨りよがりて澄してゐる者も少くない。所謂る東夷—此

には種々の回護說もあるやうだが――物茂卿思想は、今日の學者にも半學者にも、無學者にも、決して稀れではない樣だ。若し日本に新派の思想ありとせば恐らくはそれであらう。

十九

吾人は今更ら珍らしく國家必要論を、講せんとするものではない、併しながら勞働者の如き、世界を打て一丸となし、單に世界のあらゆる勞働階級を糾合して、他の資本家に當らんとする者さへも、必らず民族とか、國民とかに其の根據を定めてゐる。勞働運動の歷史に通曉するの君子は、必らず此の著明なる事實を看逃さぬであらう。特に近時の赤化運動さへも、其の張本のレニン、トロツキーの徒は、露西亞なる國家を槓杆として、其の手を八方に張りつゝあるではない乎。世界的運動を、國家的背景にてやるが如きは、一見矛盾の甚だしきものに似てゐるが、事實なれば、致方はない。

今は假りに大和民族が、大日本なる國家を離れて、猶太人の如く、ばら〳〵と世界の各處に散布せば、果して猶太人同樣の勢力を得るであらう乎。假りに猶太人同樣の勢力を得たりとするも、それは現在の日本國民の狀態に比して、得失如何であらう乎。國家の組織體に個人を寓してさへ、現在世界の各處にて、みじめなる取扱を受けつゝある大和民族が、世界行脚の一人坊主となつた後の狀態は、想ひやらるゝではあるまい乎。

二十

勿論我國には、國家の名に托して、勝手の眞似を爲す橫著者がある。之を見るにつけ聞くにつけ、彼等を想ふと同時に、國家其物迄も詛ひたくなるは人情だ、されど此れが爲めに國家を破壞するは、所謂る角を矯めて牛を殺すの類だ。飯が甘くないとて、釜を毀つの類だ。國家には何の罪もなく、咎もない。問題は如何にして此の國家を善

美、正義、且つ剛健にして有力なる國家となすかにある。それには上に御一人、下に萬民、即ち皇室中心主義的の平民政治を行ふの他に妙策はない。即ち政權を支配者階級から取り來りて、之を全國民に分配するにあるのみだ。併しそれには國民の品性を陶冶し、何れも一人前の人間として、高顏世上に濶歩する者と爲さねばならぬ。國民教育の大切なる所以は、實に此に存する、吾人が全國の小學先生の方々に惓々たるも、實に此れが爲めだ。

二十一

記者は千百年の後迄豫言せんとする者ではない、併し今後幾十年の間は如何に世界列國の內閣が更迭するにせよ、或は其の政體が變更するにせよ、世界の表面より國家其物を取り去るが如き事は斷じてないと思ふ。小國が大國となり、大國が小國となり、若しくは大々國となるが如き事はあらう。又た一の國家が、他の國家と合併するとか、若しくは分離するとかと云ふ事はあらう、されど國家其物を、渾球上から拂拭し去ることは斷じて無いと思ふ。

死後天國に入るには、必らずしも國家を經由するの必要はあるまい。されどそれ以外の事には、一として國家の力を要せぬ事はない。善にもあれ、惡にもあれ、日本國家あればこそ日本國民も、一個の勢力として、世界に立ち世界の舞臺に於て、或る役前を働らき、世界の評定所に於て、或る發言權を有するではない乎、斯看來れば一も國家だ、二も國家だ、三も國家だ、此の國家をして、善き國家となし、正しき國家となし、而して强き國家となし、此の國家を透して、世界の文明と人道とに貢獻するは、我が日本國民の取る可き唯一の道である。吾人は決して世界的公民たる勿れと云ふのではない。但だ先づ日本國民たれ、而して後世界的公民たれと云ふのだ、敎育の方針も必らず此の通りであらねばならぬと信ずる。

二十二

更らに根本的に、今ま一歩進んで考へて見たい。現在の世界は中風患者に類してゐる、神經のみはいらいらと働きつゝ、手足は一切働らかぬ。働かぬのではない、働くことが能はぬのだ。能はぬから神經が猶更らいらいらする。吾人は或る意味に於て、世界の人類の大半は、神經衰弱症に罹つてゐるではない乎と思ふ。

衰弱すればする程、愈よ〳〵神經は昂奮して安靜を保つことが難くなる。我が日本國民が世界的應聲蟲として、盛んに啼き廻りつゝある、或は此の世界的神經衰弱症の患者であるが爲めではない乎とも思ふ。吾人は斯る場合に於て、日本の國民教育程、大切のものは無いと思ふ。此の日本を救ふ責任の全部と云はざるも、其の大半は是非國民教育を擔當する諸君各位の肩上にありと自覺して頂きたい。斯る言を申せば、瘠馬に重荷とは、我等の事であると云はるゝであらう。其の通りでないとは決して申さぬ。併

しながら何れの方面から考慮を廻らし來るも、歸著する所は、必らず國民教育の要は人を作ると云ふ事だ。日本國民を作ると云ふ事だ。立派なる人間でならねば、立派なる國民たることは能はぬのだ。

二十三

今日の我國に必要なるものは何ぞ、不足する者は何ぞ。如何なる事件も人が本だ、世間では金錢單本位を夢想する者あるが、此れは全く背に眼が付てゐる蛙の了見だ。金と人との複本位を云ふ人あるが、此れは間違て居る。金ありての人でなく、人ありての金だ。されば何事でも、人間第一主義でなからねばならぬ。既に人間第一主義が、前提となれば、教育第一主義は必然の結論だ。教育第一主義の中にては、國民教育第一主義は固より言ふ迄もない。記者は我が國民教育諸君各位が、此點に想到せられんことを望む。此れは必らずしも今日と限つた事ではない、然も今日を以て、尤も然り

とする。そは世界の大勢が、我が日本を驅りて、此に至らしめたのだ。

二十四

人間本位の教育は、何よりも人物教育だ。人格教育だ。品性教育だ。世間で之を唯だ德育の二字中に詰め込むのは、吾人に於て聊か不服だ、德育と云へば、唯だ朝起をするとか、缺課せぬとか、教師の命令に奬順するとか云ふ點に止め置くは、殘念至極だ。それも德育に相違ない。併し國民教育の總てが、總括して云へば、德育だ。若し德育が人格教育と同一ならば、即ち教育の總てがそれだ。之を德育と云ふも、德育と云はざるも、それは名目の論だ。事實は國民教育は人格教育だ。即ち立派なる一人前の人間を作ることだ。作ると云へば語弊があるかも知れぬから、或は立派なる一人前の人間を養成すると云ふも可なりだ。

二十五

それには餘計な事は入用でない。第一に責任の觀念を養ふ事、第二に自主の精神を養ふ事、第三に公共心を養ふ事、餘りに單簡であるが、詮じ來れば、先づ此の三點だ。苟も此の三點を能く呑み込めば、其他はそれからそれと自得することが出來る筈である。苟も此の三點を行ひ得ば、其人の才器能力如何に應じて、或は總理大臣となり、或は村長となり、或は元帥となり。或は兵卒となり、或は銀行頭取となり、或は銀行の小使となり、或は會社の社長となり、或は會社の給仕となり其の職業の種類、及び等級等は其の人々の力相應にて十人十色であるも。何れも一人前の人間として一人前の仕事を、首尾克く仕遂ぐることが能ふ可きだ。斯る人間にして始めて忠君愛國が物を云ふ眞成の忠君愛國となるのだ。始めより其の人格を作らず、口眞似のみの忠君愛國のみを教ふるが如きは、大なれば國家を喰物とする大惡黨を作り、小なれば小廉曲

謹の僞善者を作るに止まりて、却て此れが爲めに氣慨あり、眞骨頭ある人間を躓かする虞がある。

二十六

本文の記者は如何に時候後れと罵れても、社會主義者でもなければ無政府主義者でもない、若し强て所信を告白せよと云ば、忠君愛國主義者と云ふ他はない。今少しく詳かに言ば、內に於ては君民一致の皇室中心主義者だ。更に打ち割て云へば、皇室中心的平民主義者だ。外に向ては帝國主義者だ。固より武力的でなく況んや侵略的でない。然も大和民族の膨脹、發展と云ふ意味に於ての帝國主義者だ。若し此れが帝國主義でないと云はゞ、何と云うても差支ない。卽ち內に於ては君民一致、以て其の國力を養ひ、外に向つては擧國一致、其の國力を發揮するが、記者の理想だ。此の理想は今日に思ひ付たのでなく、記者の半生を貫いたる理想だ。而して此の理想を貫徹する第一の

要諦は、國民敎育だ。而して其の敎育の第一要諦は、人間敎育だ。卽ち人らしさ人を作ると云ふ事だ。

二十七

以上の理由の下に、記者は皇室の藩屏抔と云ふ階級は固より、其の文字さへも大嫌ひだ。何となればそは皇室を、或る特權階級が私するからだ、所謂聖德を冒瀆するの甚だしきものであるからだ。皇室は日本國民の上に君臨する皇室だ。若し皇室の藩屏がありとせば、そは皇室輔弼の臣僚に向ても、皇恩を或る特權階級のみに私せぬ樣、心を用ひて貰ひたいと思ふ。而して若し皇室が茅屋の人民に親しみ給ふ思召を、現實にし給はんとせば、そは第一小學校の敎師に向て親み給はんとを、憚りながら御願ひ申し上たい。小學校の諸先生は帝國將來の國民を預るものだ。國民將來の運命は總てと云はざるも、多くは彼等の手中に握つてゐる。彼等は其の位置からしても、資格からし

ても、決して國家の最上官吏と比す可きではない。併しながら彼等は一人一個は兎も角も、之を全國的に合したる勢力は、最大有力者でなければ、最大有力者の一である彼等が皇室と接近するは、國民と皇室の接近する所以だ。

二十八

斯く觀察し來れば、國民教育奬勵會に、御下賜金を添くしたるは、少くとも吾人の理想の一部が、實行せられたものとして、單に國民教育奬勵會の爲めに祝福するのみならず、國民教育に關係せらるゝ諸君各位に向て、祝福せざるを得ざる次第である。而して皇恩の諸君に光被せらるゝは、此に止らず、必らず他日は層一層鴻大なるものがあるであらうと、期待する次第である。此れは決して私意を以て、叨りに揣摩の見を逞くする所以でない。實に日本帝國の將來の運命に就て深く考ふる所あるからだ、乃ち斯くならねば日本の前途は、面白く運ぶものでないと確信するからだ。

記者の陳述したる所は餘りに長くなりて、或は其の要領を得るに苦しまるゝ讀者もあるであらう。されど能く讀む者は、文句の外を讀む。全國小學校先生各位、諸君の中には、必らず記者と殷憂を同うせらるゝ方々あるであらう。今や日本は殆んど思想上では土崩瓦解に瀕してゐる。之を救ふ者は誰ぞ、之を救ふ者は誰ぞ。

大正十二年一月初三午後八時半　（逗子摯史亭に於て）

財團法人

國民教育奬勵會趣意書

世界大戰爭終結後の最大要務が、何れの國に於ても、其の國民教育の改善にあることは、夙に識者の唱道せる所にして、國民教育の改善が、主として優良の教員に俟つことは、自明の理也。然るに我が教育界の現狀を見るに、教員優遇の聲徒らに盛にして、優遇の實擧らず。小學教員及び其の志望者は益々減少せんとす。而して教員の數の減少は其の質の低下を意味せずんばあらず。世界禍亂の齎らせる人心の大動搖は、又我國に波及し。列國の經濟的競爭は、急轉直下の勢を以て、我國を包圍す。今や國民的志操を陶冶し、國家的精神を長養し、帝國的實力を扶植する、唯だ此時を然りと爲す也。然も我が國民教育の現狀が、斯る破綻缺陷を暴露しつゝあるを見る。誰か悚然として虞れ且つ憂へざる者あらん哉。

惟ふに世界變局以來、我國に於ても、之れに應ずる施設の方途を講ずる者、二三にして止まらず。されど眞に我が帝國の地位を自覺し、我が民族の使命を體得して、此の千載一遇の機會に應ずる所あらんとするには、國民の教育を進め、個々國民の能率を高むるより急なるは無し。即ち國民教育の振興は、實に一切經營の基本たらざるべからず。然かも教育の事たるや、其の實績の大なるだけ、それだけ其の收穫も亦た晩からざるを得ず。是れ世人が動もすれば、教育事業を閑却し去る所以と爲す。

試に少しく列國の戰後教育施設の一斑を見んか。英國は今回の戰爭に依りて、國民教育の改善を急なりとし、一九一七年八月、文部大臣フィッシャー氏は教育改革案を議會に提出し、翌年一月更に之が修正案を提出し、上下兩院に於て審議一年、一九一八年八月修正可決を見たり。新制度の概要は、從來義務教育は、滿五歲より滿十四歲（地方により滿十三歲）までを限定せしかど、尙之れに對して幾多の除外例あるを免れざりしが、新教育令は義務教育の勵行、及び補習教育となすの二大眼目の下に、五歲より十四歲までは小學教育とし、それ以上十八歲までは、義務として補習教育を受けしむる事とし、義務教育年限四年の大延長を爲せり。而して之れと共に教育俸給費其他の國庫補助增額案議會を通過し、一九一九年の文部豫算は前年に比し實に一億五千萬圓を增して四億一千萬圓を計上するに至れり。佛國は言ふに及ばず、伊太利に於ても、國民教育の施設に注目すべき改善を加へたり。獨米國に於ても、亦英國の義務教育擴張に刺戟せられ、巨億の公民教育費國庫補助法案の提出を見るに至れり。世界列國が如何に國民教育の充實擴張に腐心しつゝあるかは、之を以て其一端を窺ふに足らん。

然らば我國の國民教育の現狀は如何。義務教育は僅に六年にして、英國の十三年に比して、其の半にだも達せず。啻に年限に於てのみならず。教育の內容實質、また之に及ばざるものある也、嗚呼我國は教育に關し何時まで惰眠を貪るべき乎。惟ふに擧國參政は國民の與へられたる權利にして、普通選擧は必至の勢なり。然かも僅かに六年に過ぎざる不熟なる義務教育を以てして、一般の國民をして能く日本の運命を双肩に荷ふ參政の資格を修得せしめ得べき乎。豈に獨り參政の資格のみならんや。時勢は各人に一人前の教育を要求す。今日の義務教育は、其の內容を充實し、其の年限を延長して、完全なる一人前の國民を作るの基礎たらざるべからず。國際の競爭より考ふるも然り、文化の進運よりするも然り。國民の能率より考ふるも然り。個人の資格よりするも然り。即ち我が國民教育の最も急務とする所は、義務教育の延長、補習教育の擴張、教授上の改善等、制度及內容の兩方面に於て、實に擧

げて數ふ可からざるものあり。殊に最喫緊とする所は、實に如何にして教員に其人を得るやといふ事なり。教員に其人を得んとせば、教育者を尊重し、精神的にも物質的にも大に之を優遇して、有爲の人材を招致し、以て教育の大任を託するにあるや勿論なり。是れ實に臨時教育會議の決議の主眼とする所にして、英國が軍國多事の際に拘らず教員增俸に鋭意する所以なり。

然るに我が小學教育の現狀は、實に言ふに忍びざるものあり。斯の如く其の任務の愈々重大なるものあるに比して、其の受くる所の菲薄なる、之を他の如何なる職業に比すべくもあらず、近時教員優遇の聲頻りに傳へらるゝに拘らず、其の精神的たると、物質的たるとを問はず、之を待つこと依然として舊習を改めず。曩に多年の宿題たる義務教育費國庫負擔法の制定を見るに至りたるも、實施の成績に至ては未だ多く言ふに足らず。實施前に於て一人當り平均月俸額二十圓十四錢七厘なりし者、實施後に至り四圓六十二錢四厘を加へて、漸く二十四圓七十七錢一厘となりたるに過ぎず、是れすら異常なる物價の昂騰に遭ひ、毫も優遇の實を擧げ得ざるなり。政府も茲に顧みる所あり。本年漸く地方稅の制限を擴め。相當の臨時手當を支給する樣、督勵する事となりたるも、是れ固より他の一般官公吏並みとせんとするに過ぎず、而して元來待遇の極めて菲薄なりし教員は、假令最高の手當を受くるも其の生活は不安を免れたりといふべからざるものあり。

宜なる哉近時生活上の壓迫と、日々の劇務とは、益々是等實際教育者の氣力を消磨し去り。精神を沈滯せしめ、全國十有六萬の教員中、生色ある者幾何もなしと言ふも、未だ必らずしも誇張の言ならざるが如し。隨て年々益々教員志望者の減少を來し。本年の如きは、各府縣を通じて定員だけの生徒を得る能はず。其の入學せしめたるもの

も體力に於て益々低下するを免れざりしもの〻如し。若し今にして徹底的なる教員優遇、教員充實の適當なる方策を講ずるに非ずんば、他日臍を噬むの悔あるべきは、火を睹るよりも明けし。

國民新聞社は茲に感ずる所あり、國民新聞一萬號祝刊の記念として、金一萬圓を投じ、以て前述の目的を達するの一助たらしめんとす。吾人同志即ち相諮り、財團法人國民教育奬勵會なるものを組織し、弘く天下同憂の士の贊助を得て、主として小學教員の精神的並に物質的待遇の向上に資し、以て我が國民教育を改善し、振興し、活力あらしむることに於て、聊か貢獻する所あるを期す。吾人の事業は、未だ以て其の規模の大を誇る能はずとするも、亦た國民教育奬勵の先驅者たるに負かざる可し、若し幸ひに大方君子の熱心なる同情と贊助とを得ば、乃ち前述の目的を達するも亦た敢て難きにあらざるべきを確信す。

大正八年十月

東京市京橋區日吉町國民新聞社內
財團法人 國民教育奬勵會

露光量違いの為重複撮影

國民教育奬勵會資金募集規程

一、目的　國民教育奬勵の爲め主として小學校教員の精神的及物質的向上發展に資す

一、方法　(一)優良教員表彰(二)研究及見學費補給(三)其他評議員會決議事項

一、資金　國民新聞社長德富猪一郎氏提供の壹萬圓及び大方布志の寄附金を資産として財團法人を組織し其の資産より生ずる利子及乙種寄附金を以て之に充つ

一、寄附金種類　左の二種に分つ

(甲)　資産として基本金に編入するもの

(乙)　其の年度若くは次年度に使用すべく特定せられたるもの

一、寄附金額　一口壹圓以上とす、團體名義にても差支なき事

一、寄附宛名　東京市京橋區日吉町四番地國民新聞社内　國民教育奬勵會（振替東京四八〇六二番）

一、領收書　寄附金に對しては領收書を發せず芳名及び金額を國民新聞に掲載して之に代ふ

國民教育論叢付
定價金貳拾錢

大正十二年一月廿六日印刷
大正十二年一月廿八日發行

發行兼印刷者　東京市京橋區日吉町　渡邊爲藏

發行所　東京市京橋區日吉町　國民新聞社

發賣所　東京市京橋區日吉町　民友社

露光量違いの為重複撮影

國民教育奬勵會資金募集規程

一、目的　國民教育奬勵の爲め主として小學校教員の精神的及物質的向上發展に資す

一、方法　(一)優良教員表彰(二)研究及見學費補給(三)其他評議員會決議事項

一、資金　國民新聞社長德富猪一郎氏提供の壹萬圓及び大方有志の寄附金を資産として財團法人を組織し其の資産より生ずる利子及乙種寄附金を以て之に充つ

一、寄附金種類　左の二種に分つ

(甲)資産として基本金に編入するもの

(乙)其の年度若くは次年度に使用すべく特定せられたるもの

一、寄附金額　一口壹圓以上とす、團體名義にても差支なき事

一、寄附宛名　東京市京橋區日吉町四番地國民新聞社内　國民教育奬勵會(振替東京四八〇六二番)

一、領收書　寄附金に對しては領收書を發せず芳名及び金額を國民新聞に掲載して之に代ふ

國民教育論奥付
定價金貳拾錢
大正十二年一月廿六日印刷
大正十二年一月廿八日發行
發行兼印刷者　東京市京橋區日吉町　渡邊爲藏
發行所　東京市京橋區日吉町　國民新聞社
發賣所　東京市京橋區日吉町　民友社

終